

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371100666
法人名	有限会社ほほえみ
事業所名	グループホーム 日陽
訪問調査日	平成20年7月9日
評価確定日	平成20年8月5日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2371100666
法人名	有限会社ほほえみ
事業所名	グループホーム 日陽
所在地	名古屋市港区南陽町西福田丸山21-1 (電話) 052-301-8980

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年7月9日	評価確定日	平成20年8月5日

【情報提供票より】(平成20年6月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月15日
ユニット数	ユニット 18 人
職員数	24 人 常勤 12人, 非常勤 12人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成20年6月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	71 歳	最高	92 歳
協力医療機関名	協立総合病院・当知診療所				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症の人と家族を支えたいという代表者の強い思いからホームは設立され、その思いは理念に反映されると共に、職員にも伝えられている。職員は、穏やかにのんびりと笑顔で暮らすを基本に日々介護に努めている。ホームは自然に恵まれた郊外にあり、道路から玄関までスロープが設置され、入居者の歩行に配慮されている。居室には電話機型ナースコールが付けられており、利用すると職員が察知して対応している。玄関やリビングには、入居者作成の大きなちぎり絵が飾られ、季節が感じられた。ホーム主催の敬老会には、多くの家族や地域住民の参加があり、夏祭りには学童保育のこども達の参加や、秋祭りには山車がホーム前の道路を通ったり、毎日の散歩時には、地域の人達と言葉を交わすなどして、地域の一員となっている。今後、さらに認知症の啓発にホームとして取り組みたいと考えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で出された課題について、改善への取り組みが十分とは言えない。外部評価の結果と改善について代表者、管理者は理解しているが職員まで伝わっていない部分もあり、全体的に情報の共有と代表者、管理者、職員との意志の疎通への取り組みに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員が取り組んだが、評価の意義やねらいについて十分理解したうえでの実施とはいえないことから、今後、評価の意義および課題の改善について代表者、各管理者、職員で話し合い自己評価に取り組むことに期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は年6回開催しており、町内会長、地域包括支援センター担当者、学識経験者、福祉事業関係者、家族代表、入居者代表、職員代表で構成されている。議題はホームの活動報告や行事予定のほか、介護保険や認知症についてなど、地域包括支援センター担当者から説明を受け、意見交換を行っている。その際、家族からターミナルケアについて意見と実施の要望があり、ホームの運営に反映させるよう検討したいと考えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会議は年4回予定し、食事会等の行事に合わせて開催している。多くの家族が参加して、行事予定や外部評価などの説明のほか、家族からの意見、要望などを聞き、意見交換の場となっている。また、「日陽だより」を各階の担当者持ち回りで毎月発行し、ホームでの日常的な生活や行事の様子など、写真を添付して家族に伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、回覧が回ってくる。ホームからは「日陽だより」を発行して、行事予定などの情報を提供すると共に、地域リサイクル活動や町内の防災訓練など、地域の活動に積極的に参加し、地域との連携に努めている。また、地域住民に認知症について理解を得るため、啓発活動に取り組みたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、認知症の人とその家族を支えたいという代表者の思いを反映したものとなっており、協力医や入居者家族に理解、協力も得られている。理念は玄関の目に付きやすい場所に掲示され、職員は理念の内容と意義を理解し、入居者一人ひとりの生活リズムを尊重しつつ、家庭的な生活環境を作ることを目指しながら、介護サービスに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は入社時に、代表者から理念の内容と意義について説明や指導を受け理解している。理念について定期的に話し合うことは無いが、必要に応じてミーティングで話し、申し送りノートを活用して情報の共有化に努めている。また、代表者は日常的に介護の現場に出て、職員と行動を共にしていることから、職員は代表者の思いや理念を認識して介護サービスの基本にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており回覧も回ってくる。ホームの「日陽だより」を回覧し、情報の提供や行事への参加を呼びかけ、ホーム主催の敬老会には多くの家族の参加や地域住民の参加があった。また、地域のリサイクル活動、町内の防災訓練（職員が参加）、子供会の運動会など地域の活動にはできるだけ参加し、秋祭には山車がホーム前を通り、入居者を喜ばせ地域の一員となっている。地域のボランティアの訪問が2カ月に1回あり、落語、手品、大正琴などが演じられている。今後、ホームとして地域住民に認知症について理解を得るための啓発活動に取り組みたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の課題について十分な改善には至っていないが、代表者は評価の意義や必要性を十分理解しており、市の監査を受け、指導もあり改善に向けた取り組みを始めている。自己評価は全職員が取り組んだが、評価の意義やねらいについて十分理解したうえでの実施とはいえない。今回の評価結果については、運営推進会議や家族会で報告する予定をしている。		自己評価及び外部評価を実施する意義やねらい、その具体的な活用方法について代表者、管理者で話し合いを行い、理解に努めるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は年6回開催され、メンバーは町内会長、地域包括支援センター担当者、学識経験者、家族代表、入居者代表、職員代表で構成されている。議題は外部評価、活動報告、行事予定等のほか、介護保険、認知症について地域包括支援センター担当者から説明があり、議事録は「家族会」「日陽だより」を通じて関係者に報告している。家族からターミナルケアについて意見が出され、ホームとして協力医療機関や訪問看護ステーション、職員との話し合いを行い、意見を運営に反映させたいと考えている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当窓口へは必要な時に出向いているが、運営推進会議の議事録は毎回ファックスで送っている。地域包括支援センター担当者が運営推進会議のメンバーになっていることから、成年後見制度や介護保険制度などについて説明がありとても勉強になっている。今年度は市からの訪問の予定がある。また、ホームとして学校からの職場体験などの受け入れも考えている。</p>		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>各階担当者の持ち回りで「日陽だより」を毎月発行しており、運営推進会議、家族会で配布したり、家族へ送付している。ホームでの日常的な生活や行事の様子など写真を添付して伝えており、家族の安心と協力を得る取り組みをしている。家族の来訪時には、必ず代表者が話し、要望や相談を受け、日々の生活の様子などは職員が伝えている。小遣いは、入居者本人が管理する人もいるが、その他の人はホームで預かり出納帳を作り、家族の来訪時に確認してもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は年4回予定し、食事会など他の行事に合わせて開催しており、多くの家族が参加している。議題として行事予定、運営推進会議、外部評価の内容のほか、認知症や感染症、重度化について説明し、家族からの意見や要望などを聞くよう努めている。家族会や行事に多くの家族が参加することで、家族間や家族と職員の交流と情報を共有する場となっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間での職員の異動は無い。職員が退職する場合は、本人から入居者に説明している。ホームとしては、運営推進会議や家族会で報告している。さらに「日陽だより」にも掲載している。介護サービスは職員1名に入居者2~3名の担当制で行い、代表者が日常的にサポートをして、担当者と行動を共にしていることから、馴染みの関係ができ退職によるダメージが軽減されるよう配慮されている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時の研修は採用後1カ月以内に、継続的な研修は年1回行うことにしているが、外部、内部研修計画の作成や実施には至っていない。市内のグループホーム勉強会、交流会、港区事業者連絡会には参加している。また、研修会の情報は職員に知らせているが、今のところ参加には至っていない。今後、研修会や勉強会への参加後に、資料などを利用して月1回のミーティングなどで報告し、情報の共有化をしていきたいと考えている。</p>		<p>外部、内部研修の年間計画の作成、および勉強会などの学びの機会を作り、職員の質の確保、向上に向けた取り組みに期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国グループホーム協議会、名古屋市認知症グループホーム協議会に加入して、代表者または管理者が参加している。今後は内容によっては職員の参加を考えている。また、実践者研修への参加を予定しており、職員の受講にむけて調整している。</p>		<p>各協議会に参加し、職員の受講を考えていることから、より積極的に受講参加を図り、職員の勤務ローテーション等の日程に配慮し、可能な限り多くの職員に参加の機会を作り、また、同業者との交流や連携のネットワーク作りとともに、職員の質の向上を目指す取り組みに期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に3日間程度体験入居を実施しており、延長も可能であるが、そのまま引き続き入居になる場合がほとんどである。在宅からの入居希望者には、自宅訪問を行い家族と一緒にホーム見学をしてもらっている。また、病院から入居する場合には、必ず家族にホーム見学を行ってもらい、本人本位になるよう、家族や本人と十分話し合いを行い、安心してスムーズに入居できるよう心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者18名中、8名が男性であり、介護に気配りや配慮が必要な中で職員は入居者の性格や認知症の度合いなど、その人の状態に合わせた日常生活を共に過ごせるよう心がけている。ホーム敷地内には菜園があり、夏野菜やトウモロコシなど作っており、草取りや栽培など、職員と一緒にやっている。収穫した作物は食材として利用され食事の楽しい話題となり、入居者の生きがいと互いが協働しながら和やかな生活づくりに取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎月のミーティングには、入居者も参加してカンファレンスを行っている。このことから職員は、入居者一人ひとりの思い、希望についてより深く細やかに把握することができている。事務所内に記入用ノートを置いて、職員の気づきや提案などを書くように取り組んでいる。なお、担当制になっているが担当外の入居者についても自由記載として、ミーティング時に話し合っている。希望や意向などを明確に把握しにくい入居者の情報など、多くの職員で見聞き、共有するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当制をとっており、担当職員が介護計画の基礎を作成しケアマネジャーに確認してもらい、月1回のカンファレンスで話し合って介護計画を完成させている。1階はカンファレンスの開催が実施できていなかったが、先月より開催しており、今後も継続していく予定である。カンファレンスには、入居者も参加しており、今後は家族にも参加してもらえよう依頼している。</p>		<p>アセスメント様式の変更を現在検討しており、現在、介護計画書の様式も変更された。よりよい介護計画を作成するため、日々見直しが実施されている。ケアを実施する現場の職員が理解し、実践できるよう今後の取り組みに期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>2階では毎月ミーティングの後にカンファレンスを実施し、9名の入居者の状態について話し合い、確認している。介護計画の期間に応じた見直しを実施しており、長期目標を6カ月、短期目標を3カ月としている。状態に変化が見られた場合は随時、介護計画を変更している。1階でもカンファレンスを実施し、入居者、職員で話し合って状態を確認している。</p>		<p>1、2階がそれぞれ入居者本位の介護計画に努めており、1階ではカンファレンスを先月から実施し、皆と話し合いながら気づきやアイデアが反映されるようになった。今後もカンファレンスが定期的に行なえるよう取り組みに期待される。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医への受診については基本的に家族にお願いしている。医療連携体制加算は受けておらず、今後検討している。認知症高齢者を介護している家族から、認知症についての相談を電話で受けることが多い。訪問される場合もあり、家族の話をよく聞き、援助方法やサービスについてなどアドバイスをしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医(内科)の往診が月1回(8月からは月2回を予定)実施されている。入居前のかかりつけ医に受診することも可能であり、その場合は家族に通院介助をお願いしている。歯科の協力病院には受診しているが、年1回往診が実施されており、入居者の状態によって受診が難しい場合は、医師の協力のもと往診されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として、医療行為が発生した場合(医学的な対応が必要な場合も含む)には、ホームでの対応が難しいことを入居時に家族や本人に説明をして同意をいただいている。現在、医療連携体制加算はとっておらず、重度化や終末期の対応については、今後提携医療機関の医師や訪問看護、本人、家族、職員を交えながら検討していきたいと考えている。		重度化、終末期への対応を今後検討していく予定であることから、医療機関との連携を図り、ホームとしての方針を定め、本人、家族や職員、医療関係者との連携、協力体制の確立に向けての取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務については、就業規則に記されている。職員は見守りを兼ねりピングで記録を記入しているが、他の入居者の目に触れないよう留意している。入居者の居室に入る時は、必ずノックをして声をかけてから入室しており、言葉かけには入居者の尊厳やプライバシーを損ねないよう努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状態や生活リズムに合わせることを基本にしている。入居者には導眠剤の利用は無くなり、朝の声かけはするが無理強いせず、入居者の望むペースでの生活支援に努めている。家事や外出、レクリエーションなどは押しつけせず、入居者の気持を尊重するよう配慮している。正月や盆に外出者はいるが、「ホームが我が家」との思いからか外泊者はいない。無断外出者は今のところいないが、今後発生した場合は、外出を見守りながら落ち着くのを待って声をかけ戻すよう心がけることにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの方針である「本人のできることは行ってもらう」を大切にしている。包丁を持つことは難しくなっても食材の準備や食器洗い、拭きなどの後片付けを入居者は行っている。ホームで収穫した野菜が食卓を飾ることも多く、話に花を添える。訪問時には、入居者と職員が会話を楽しみながら食事を摂っており、笑い声も多かった。入居者の好き嫌いにも配慮しながら食事を支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階は日曜日を休みの日と決めている。2階では休日は設けていない。入浴は、入居者と職員が1対1になれる時間であり、本音が聞けたりコミュニケーションを図るのに大切な時と考えている。入居者の重度化に対応できるよう、2階にリフトを設置している。毎日入浴している人がほとんどであり、時間帯も午前、午後と希望に添うよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1、2階それぞれ特徴があり、1階では入居者が協同して作品の制作を行なうことが多く、2階では各自の好きなことをリビングで行なっている。役割分担がおおむね決まっており、入居者は自分の仕事として毎日取り組んでいる。楽しみごととして、月1回の外出行事や季節の行事などがあり、誕生日には本人の希望メニューを支援している。ボランティアが定期的に訪問しており、入居者の楽しみになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1、2階では多少差異はあるが、散歩には頻繁に出かけている。車椅子の方も多いため、グループに分け出かけている。買い物ツアーや外食、水族館など月1回は外出行事を計画し外出している。ホームの敷地に畑があり、家庭菜園を入居者と職員が一緒に行き、水やりや草取りなどしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠をしていなかった時期もあったが、入居者が独りで外出し警察の協力を得て捜索したことがあり、それ以後玄関や裏口などの扉は施錠している。家族には説明し同意をいただいているが、家族から鍵の種類について工夫できないかとの声が出ており、現在検討している。入居者が独りで外出された場合の取り決めは、文書としてはないが口頭で伝えられている。		職員は入居者の外出希望の傾向を察知し、事前に対応するよう努力している。鍵をかけないケアの大切さも理解していることから、施錠することが常態化しないよう、心がけ話し合っていくことが期待される。また、マニュアルについても検討されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	名古屋市港防災センターに行き、入居者と一緒に地震体験や見学を行なった。6月に業者による、消火訓練(使い方)や通報訓練を実施している。ホーム独自の避難訓練には至っておらず、今後実施することを検討している。災害時の備蓄品は3階に保存しており、米、水、コンロ、懐中電灯などが用意されている。		地域の消防署から協力していただけるとの声もあり、今後避難訓練の実施を検討していることから、実施に向けた取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は1、2階それぞれで立てており、摂取エネルギーの把握までは行なわれていないが、本を参考にバランスに考慮して立てている。病院の栄養士に献立を見てもらうなど見直しを実施したこともある。毎月、体重測定を行い健康管理に努めている。提携病院の医師より摂取カロリーについて指示を受けていることもあり、今後さらに強化していく予定である。水分摂取量は職員が注意しながら、1日1 以上を目安に摂取している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く開放感があり、リビングは自然光が入り明るく、入居者の作品や写真などが飾られている。掃除は入居者と職員が一緒に行い、本人のできることを行ってもらっている。リビングには空気清浄機が数台置かれ、清潔が保たれている。時節柄、七夕の笹飾りがあり短冊にそれぞれの願いが記されていた。各階に行事予定表が掲示され、ホワイトボードには日付が記され、毎日入居者が書いている。洗剤などの保管については現在、危険性がないこともありそのまま置かれているが、一度検討されることを期待したい。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとクーラー、防災カーテンが備えられており、窓からは外の景色が一望でき、季節の移り変わりを感じることがができる。その他は入居者の使い馴れたタンスなどが持ち込まれ、写真や作品などが飾られていた。ベッドは入居者の状態に応じて介護用ベッドをリースすることができる。電話型のナースコールが各部屋に設置されており、使用すると職員が察知し対応している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。